

2002.6.30

日 本 だめ購読料4,383円(うち消費税208円)・一冊朝刊140円、夕刊50円

# 改ざんした診療記録

## 当時の主任教授 閲覧

大事件 女子医大 東京女子医大 女子死亡 東京女子

東京女子医大で昨年三月、当時十二歳の女児が手術ミスで死亡した事件で、証拠隠滅の疑いで逮捕された瀬尾和宏容疑者(46)が当時の上司に、手術中のトラブルを報告したうえ、改ざんした診療記録を見せていたことが二十九日、関係者の話でわかった。上司は「改ざんは気がつかなかった」としているが、病院側の隠ぺい体質が事件の背景にあった可能性も出てきた。

関係者によると、瀬尾容疑者は、死亡させた平柳明香さんの心臓手術が行われた昨年三月二日の夜、上司の主任教授(昨年三月末に退任)に「手術中に人工心肺装置でトラブルがあり、患者への血液循環がうまくいかなかった」などと手術経過を報告。この際、主任教授から「(脳障害の際に必要な)低体温療法をしているか」など、脳障害の可能性を疑うような発言もあったという。

三日後に脳障害が原因で明香さんが亡くなるなど、瀬尾容疑者は看護師長などに指示して、明香さんの瞳孔の直径を七ミリから四ミリとして脳障害がなかったように診療記録を改ざんしたとされる。主任教授は明香さんが死亡した後、こつした診療記録を閲覧したが、脳障害については何も言わなかったという。

瀬尾容疑者は手術後に明香さんの両親に対して「手術中に突然の心不全が起きたため、低体温療法を実施している」などと説明、人工心肺装置のトラブルで脳障害が起きていたことを隠していた。同容疑者は、両親に説明した内容も主任教授に伝えていたという。

女子医大小児心臓手術事故

改竄

2002年6月30日 日経新聞